



新年号

「雲 晴」第四十五号

令和五年一月一日発行

貞 林 院 瑞 正 寺
〒125-0041 東京都葛飾区東金町五丁目四六一番五
電話(〇三)三六二七―三四一五
FAX(〇三)五六九九―五九一五

ついで
新年のお慶びを
申しあげます



新しい年を迎え世界中で新年のお祝いが行われていることと思います。しかしながら昨年(去年)の二月に勃発しましたロシアによるウクライナ侵攻はおそらくまだ終焉を迎えることもなく、多くの兵士や民間人の犠牲者が出ていることでしょう。一番寒さの厳しいこの時期に恐怖に怯え、不便な生活を強いられているウクライナの方々への思いを寄せるとともに、一日も早く平和な日々が訪れることを願って止みません。

新型コロナウイルス感染症は昨年十月頃には少し落ち着きを見せておりましたが、年末年始を迎えて帰省などの移動により、どのような状況になっているのでしょうか。

早いものでこの感染症は発生から丸三年目を迎え、人の移動や飲食など、これまでに経験のない生活行動の制限もありました。昨年を振り返って見ますとこのような事態に加え物価の上昇、景気の低迷など正に激動の一年だったように思えます。どうか今年(今年)は各地の戦争が終結し、世界が平和となるよう、また新型コロナウイルスも終息して安心して暮らせる世の中が戻ることを祈るばかりです。

さて来年令和六年は法然上人が浄土宗をお開きになって八百五十年を迎えます。浄土宗では開宗八百五十年慶賛事業として様々な企画を立て来年の正当に向け準備を行っておりますが、五十年に一度というこのようなご縁を頂けるとは本当に有り難いことです。八百五十年という永きに渡りお念仏の聲が続いてきたことに感謝をするとともに、これから先も法然上人の教えを伝え、お念仏の聲が絶えることのないよう精進し、檀信徒の皆様とともに正當をお迎えしたいと思います。

唱歌のふるさと 童謡のくに ⑬

著：佐山哲郎



赤い靴履いてた女の子

北海道ルスツ町に母思像と名づけられた女の子の像が建立されている。女の子の名前はきみちゃん。

東京、麻布十番にはきみちゃん像がある。静岡県清水市の日本平山頂には、赤い靴の女の子、母子像が建てられている。横浜、山下公園にも赤い靴にちなんだメルヘン像が立っている。いつ

たいこれはどういうことであろうか。

作詞の野口雨情が北海道にい

たことはよく知られている。

雨情が本当に異人さんに連れられて行った赤い靴の女の子を目撃し、その事情を知っていたかどうか、それは誰にもわからない。作曲の本居長世にいたつては、ある意味でまるで関係ない事柄である。

しかし不思議なことが起きた。赤い靴を履いた四歳の女の子が横浜の港から船に乗って異人さんに手を引かれて行ったその光景を目に浮かべ、それは私の姉ですと名乗り出た女性が現れた。

北海道新聞の夕刊にその投書は載った。それを讀んだ菊池寛というテレビマンが執念とも言える調査を開始した。結果、判明した事実がある。

北海道新聞の夕刊にその投書は載った。それを讀んだ菊池寛というテレビマンが執念とも言える調査を開始した。結果、判明した事実がある。

女の子の名はきみちゃん。母親は岩崎かよ、母親は一人の青年と知り合う。そして社会主義とキリスト教の理想を追求した結果、農場の開拓に参加する。

きみちゃんは鳥居坂教会の施設に入った。おわかりであろう、清水市、麻布、北海道、横浜にそれぞれの思い出を残した。

華

花ひらひて
實をむすぶ
好胤

① 後生大事に

高田都耶子

私が物心ついた頃から、両親はお寺のことで忙しくしていましたし、副住職だった父は朝から夕方まで、修学旅行で奈良を訪れる生徒さんたちに話をする日々でした。子供たちに「仏こころの種まき」をすることが自分の大きな使命であると一生懸命だったのです。そんな父の印象は未だ多くの方の心に残っています。

「高校生の時にお父様のお話を聞きました」と懐かしげに言っていただ

くことがよくあります。そのように印象深く思っ下さっていることは有難いです。嬉しいです。一人娘で気まま存分だった幼い日の私を父は甘甘で愛情いっぱい育ててくれました。長じてからも甘い父でしたが、時に「都耶子も、もうちょっとお父ちゃんの話（法話）を聴いたらどうなんや」と叱るとはなしに愚痴めいて言っていました。そしてお願いしておくべきでした。機会はいく

らでもあったのに、真剣に聞こうとしなかった事が、今となって悔やまれます。まさしく「親の意見と茄子の花は千に一つの仇もない」の言葉が身に染みるのです。とは言え毛穴で聞法の例え通り、聞くとは無しに父の話は聴いておりましたので、父の遺した言葉をご紹介しつつエッセイを綴っていかうと思えます。

さて、お正月になると父の部屋の

一口法話



「細やかな実践」

私は自坊でお檀家さんのご法事を勤めさせて頂く折に、読経の後に試みている細やかな実践を紹介いたします。法然上人の教えをわかりやすく説くために「川柳」を引用させていただきます。

その中で好評なものをご紹介します。

「明日よりも

今日を大事に 生きています」

一日一日を大事に一生懸命生きておられる感謝の気持ち素直に表されています。仏様に生かされて頂いているという頭の下がる句ではないでしょうか。

「顔洗うついでに心洗えたら」起床後に洗顔の習慣は誰にもあるでしょう。顔の脂や汚れは洗顔フォームで洗い流すことはできますが、「心の垢」まで落とすことはできません。あくまでもご本人の反省と自覚を待つかありません。

誘いの書へ



「兔」

貞林院瑞正寺 住職 林 清方
故林 錦洞書

床に掛ける軸がありました。それは大根屋小右衛門の作と言われたものでした。大根屋という面白い屋号はその名の通り、大根を一本一本商って財を成したことに因みます。そんな小右衛門さんは、金持ちになつてからも以前と変わらぬ質素な暮らしぶりを続けていました。世間から「けちんぼ」と陰口を叩かれても一向に意に介さず身を慎む生活ぶりでした。さて天保二年四月、水の都大阪の川を全部どぶさらえることになりました。その大事業ゆえ広く寄付を募ったところ、当時日本一の財産家と言われていた鴻池善右衛門が千三百両を寄進しました。そしてその鴻池さんに続いてほんと四百両を



寄進したのが大根屋小右衛門で、これには大阪中が驚きました。自分の生活を質素に切り詰めても、公のためには惜しげもなく差し出す。お金を生かして使うということ皆は教えられたのです。
父が大切にしていたその大根屋小右衛門の軸ですが、大根の絵に添えて、
朝は粥 昼一菜の 夕茶漬
後生大事に 身の程を知れ
とありました。
「プロフィール」
エッセイスト 奈良市生まれ
白百合女子大学文学部フランス文学卒業
父は法相宗下本山薬師寺管長 高田好胤師長女
東大寺で受戒 得度「華聖」の法名を受ける
著書「後生大事に」「父高田好胤」「父からの贈りもの」「名師の訓え」「心の添え木」など

金文書体での「兔」今にも飛び跳ねそうな様子です。
先代は毎年、正月を迎えるにあたり色紙に新年の干支を書いて玄関などに飾っておりました。「玉兔薦寿盃 丁卯元正」と添え書きがされていることから、昭和六十二年卯年のものであり「玉兔（月に住む兔）が正月のおめでたい盃を薦める」という意味だと思われま

す。
「ある時、山の中で力尽き倒れた老人を猿と狐と兔が見つけた。この老人を助けようと猿は木の實を集め、狐は川で魚を捕ってきました。が、兔だけは食べ物を何も探せませんでした。自分の非力を嘆いた兔は自分を食べてもらおうと自ら火の中に飛び込んでしまいました」というものです。
実はこの老人は帝釈天の化身

「愚者の自覚」の言葉を本当に表す句ですね。
「お悔やみの欄 先ず年令を見て 俺はまだ」
毎朝の新聞で紹介されているお悔やみの欄を見て、自分はまだまだ大丈夫だと思いたがる人間の真理が滑稽に表現されているようです。気がつけば私たちはこのような気持ちを持つのではないのでしょうか。用心しなければなりません。
このようなひとときを持てることに感謝、生きていくことにも感謝、この感謝の気持ちを持てることが阿弥陀様の願いであると感ずることが細やかな私の喜びでもあります。
合掌
(総本山知恩院布教師会ホームページより)

であり、この兔の慈悲に満ちた行動を弔い、後に皆のお手本となるようにと月に火中に飛び込んだこの兔の姿を宿したとされています。とても切ない話ですがそんな逸話を思い出しながらか眺めて見るのもいいかもしれせん。
兔は跳ねることから卯年は飛躍の年、景気が回復して好転するなどといわれます。
今年は全てにおいて成長の年となることを念じております。



謹賀新年

寺内一同、おかげさまで元気に年を越すことができました。
 今年も心を新たに精進いたしますので、檀信徒の皆様におかれましては、今後とも寺の護持興隆にご協力を賜りますようお願い申し上げます。
 卯年の守り本尊は、文殊菩薩さまです。智慧の仏さまで、物事の正しい在り方を見極める力と判断力に優れ、その智慧で人々を悟りへと導きます。右手に剣、左手には経典を持ち、剣は煩惱を打ち碎き、経典は良い教えを伝える物とされています。文殊菩薩さまのご加護により、今年一年皆さまが平安に過ごされることを心より祈念申し上げます。

令和五年癸卯 元旦

貞林院瑞正寺

住 職 林 清方
 副住職 林 良政
 法類総代 林 英道
 同寺総代世話人一同

令和五年 年中行事のお知らせ

本年の行事につきましては、下記のとおり予定しております。近づきましたらあらためてご案内いたしますので、お誘い合わせの上ご参詣ください。

*春・秋彼岸会法要につきましては、寺報にてご案内をしております。お中日に塔婆回向をしておりますので、塔

- *春彼岸会法要 三月二十一日(火)
- 施餓鬼会法要 五月 十四日(日)
- 七月お盆法要 七月 十六日(日)
- 八月お盆法要 八月 十三日(日)
- *秋彼岸会法要 九月二十三日(土)

婆をご希望の方は電話・ファックス、メール等によりお申し込みください。

*今田篤洞先生が産経国際書展

「内閣総理大臣賞」を受賞

寺では月に一回第二火曜日に書道教室を行っており、講師として今田篤洞先生にご指導を頂いております。今田先生は先代林錦洞の古いお弟子さんであり、先代亡き後は菽水書人社(先代から引き継いだ書道の会で現在住職が会長)の運営にご尽力頂いております。現在は産経国際書会の副理事長でもあり、昨年の第三十九回産経国際書展におきまして「内閣総理大臣賞」を授賞されました。

この賞は十九年前に先代も授賞しており、師匠と同じ賞を頂けたことに大変感銘をされておりました。

八月十八日には明治記念館にて授賞式が行われ、社中会員数名も参加してきました。七月に体調を崩され長く入院され、退院して間もなくの授賞式でしたが、壇上では力強いお言葉で御礼のご挨拶をされております。



「授賞後にご家族と社中の方々も一緒に記念撮影(中央が今田先生)」

した。

これからも書会の発展と後輩への指導育成に益々ご活躍されますことを祈念いたします。

内閣総理大臣賞 副理事長 (漢字部) 今田 篤洞

身元聲 名をよむ意第台傳
 宣方真平より息破書筆第台名

買島 身元聲名在

(貞林院瑞正寺)